

年月日

17

07  
07

ページ

12

NO.



PART5

12

## IoT・AIとネットワーキング

(2)

国際社会経済研究所（NEC  
グループ）主任研究員



## 松永 統行

トワーキングとは、情報通信技術の活用により、人間の社会活動をつかさどる神経のよう

な系（システム）を社会の仕組みの中に創り出すことのできる新しい革新的のフェーズに入りました。

トワーカーとは、例えば、目で物を見るようになります。このように、カメラから入つてきただけで、振る舞いが

起きるシステムをいう。仕組みの中では、ネットワークも固定化され、状況により、情報の創出と消費をその場で繰り返すものにならざるを得ない。

トワーカーは、世界と切り離せなくなつた情報が作り出す仮想世界においても、ごく一般的に、多形的にならざるを得ない。

や情報をお供給する社会インフラとして広がった。安定期に供給するために標準化を繰り返しながら固定化した仕組みが世界をつなぎ、電子メールやウェブでの情報共有が可能になつた。

や考え方や経験が人によって異なり、その振る舞いが変わるように、コンピューターもその振る舞いを変えて、環境に柔軟に対応する。また、刻々と遷移して移動し、従来のように蓄積されている情報に蓄積されている情報の処理が主軸とは限らず、状況により、情報を扱う方法は、実世界においても、実世界と切り離せなくなつた情報が作り出す仮想世界においても、ごく一般的に、多形的にならざる得ない。

次世代都市システムの新しい特徴  
IoT・AIによるポリモルフィックネットワーキング

インターネットの登場により情報社会が生まれ、約20年を経て、IoT（インターネット・オブ・シングス）という、さらに多様なモノをつなぐという概念が登場している。今、人工知能（AI）がこの概念に加わり、つながることを考えることが一体化した、IoT・AIによる、社る。IoT・AIネット

## 社会の隅々に“神経”通う

## 準最適化の概念

今年の3月、国際社会経済研究所のIoT研究会シンポジウムにおいて、本研究会の主（金曜日に掲載）